

長田 重一 特任教授（常勤）
（大阪大学免疫学フロンティア研究センター特任教授（常勤））



長田 重一（ながた しげかず）（71歳）
大阪大学免疫学フロンティア研究センター特任教授（常勤）

【学歴】

昭和49年	3月	東京大学大学院理学系研究科修士課程修了
昭和52年	3月	東京大学大学院理学系研究科博士課程修了 理学博士（東京大学）

【職歴】

昭和52年	4月	東京大学医科学研究所助手
昭和55年	10月	スイス国チューリッヒ大学分子生物学研究所 研究員（リサーチアシスタント）
昭和57年	1月	東京大学医科学研究所助手
昭和62年	4月	財団法人大阪バイオサイエンス研究所 第一研究部研究部長
平成7年	7月	大阪大学医学部教授
平成11年	4月	大阪大学大学院医学研究科教授
平成14年	4月	大阪大学大学院生命機能研究科教授
平成19年	4月	京都大学大学院医学研究科教授
平成27年	4月	大阪大学免疫学フロンティア研究センター 寄附研究部門教授
平成29年	4月	大阪大学栄誉教授
令和2年	4月	大阪大学免疫学フロンティア研究センター 特任教授（常勤）

長田 重一 特任教授（常勤） （大阪大学免疫学フロンティア研究センター特任教授（常勤））の研究成果

- 細胞死（アポトーシス）の研究を行い、そのメカニズムを明らかにした。
- アポトーシスがうまくいかないと自己免疫疾患など様々な病気を起こすことを証明した。

功 績

1989年、アポトーシスに関する研究を開始。

1991-2014年：アポトーシスを引き起こす分子、それを実行する分子を見つけることに成功。

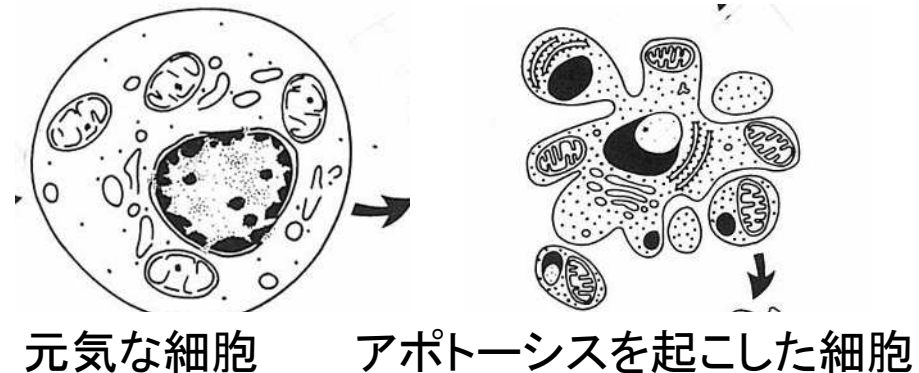
⇒ アポトーシスが生体にとって大切な過程であることを証明。

当該成果がある種のヒトの自己免疫疾患の原因解明につながった。

※アポトーシスに基づく自己免疫疾患について...

誤って自己の構成成分を攻撃してしまう危険な免疫細胞を、アポトーシスにより排除することができず、これら免疫細胞が異常に増殖して自己の細胞や組織に傷害を与えてしまうことがある。

アポトーシス



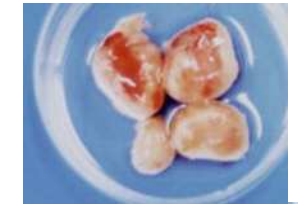
アポトーシスがうまくいかない？

リンパ球の異常な蓄積、自己免疫疾患

正常

アポトーシスの欠陥

リンパ節



脾臓

